

学力の基礎をきたえ どの子も伸ばす研究会ニュース

NO. 368

学力研の広場

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

2026.10.5

学 力 研 発 行

常任委員長 岸本ひとみ

ペイペイ銀行うぐいす支店 普:3607141

来る10月17日に、第20期「先生のための学校」が開校します。二十周年「特別記念講演」として、上越教育大学の赤坂真二先生にお越しいただきます。赤坂先生からのお言葉を局長だよりに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

今、常任委員として、先日の全国フォーラムや「先生のための学校」などで講座をする先生方も、かつては講座に参加して、話を聞く側にいました。学力研と出会い、学んだことを追実践し、そこから学んだことを交流し…そしてどこかで転機を迎え、伝える、話をする側に立つようになりました。私の場合、その転機となったのが「先生のための学校」への参加でした。

これまでたくさんの先生方が参加され、学ばれ、内容が磨かれ続けてきた学力研が誇る連続講座「先生のための学校」も、ついに20期目。かつて参加されたという方も、続けて参加されているという方も、きっと感慨深いものがあると思います。特集では、常任委員がそれぞれに、学力研、そして「先生のための学校」に対する思いを綴りました。（堀井）

CONTENTS

◇特集 「学力研・先生のための学校」で学んだこと◇

教師としてのステージが「先生のための学校」で変わった
「学力研・先生のための学校」で学んだこと
「学力研・先生のための学校」で学んだこと
「学力づくり」で「学級づくり」をすることのよさ
「先生のための学校」でのいろいろ

堀井克也・・・2
鈴木基久・・・4
小川慶子・・・6
吉田雅直・・・8
岸本ひとみ・・・10

◇連載◇

考える力をつけるための授業の組み立て方⑧ バンコク旅行から授業を作る
教科書「を」と「で」で教え・学ぶ 社会歴史授業4 4時間目 「むらからくになへ」
「先生のための学校」誌上 開校

荒井賢一・・・12
深澤英雄・・・15
久保齋・・・17

常任委員長・事務局だより
学力研カレンダー

・・・18
・・・19

教師としてのステージが、「先生のための学校」で変わった

春日井学力研 堀井 克也

◎ 第十期「先生のための学校」の思い出

これを読んで下さっている先生方の中に、こんなことを感じている方はいませんか？
「本を読んだり、休日にお金を払ってセミナーに参加したりしてがんばってはいるけれど、教師として確かに成長できているという実感が今一つもてないんだよね…」

実は、これは教員六年目の私自身が感じていたことです。学力研に出合って、全国フォーラムや地元の勉強会に参加するようになって数年が経ち、色々取り組んではいるし、それなりに成果も出ている。うまくいかないこともあるけれど、仕事は楽しいと思える。けれど、このままでもいいんだろ
うか…そんな漠然とした不安がありました。当時の私の中で、「先生のための学校」はまだ縁遠い存在でした。愛知から大阪まで半年間、毎月通う…そこまでの決意はできず、全国フォーラムで「先生のための学校」

が毎年案内されているのを、いつもぼんやりと聞き流していました。

しかし、先述のような漠然とした不安を抱えたまま参加した十年前の全国フォーラムで、「先生のための学校」が第十期を迎えるというアナウンスを聞いた私の心に、「これが最後のチャンスなのかもしれない。」という思いが唐突に湧き上がったのです。今にして思えばそんなことも無いのでしょうか、当時の私にとっては、一念発起するきっかけになってくれさえすれば、理由は何でもよかったのかもしれない。

参加を迷っている方、まだ迷ってすらない方、第二十期開講は、チャンスです。

当時は二人の子どもがまだ幼く、毎月大阪へ通うというのは時間的にも金銭的にも妻に負担を掛けることになるため、大いに悩みました。しかし、勇気を起こして相談したところ、妻は快く背中を押してくれま

した。仕事に邁進する私を支えてくれる家族に恵まれたことも、大きかったです。

◎ 低学年部会での豊かな交流

コロナ禍によって一時はオンラインで開催されることもあった「先生のための学校」ですが、第十期当時は全員参加の講座の後に、低中高の各部会に分かれてそれぞれの実践について交流する時間がありました。

低学年部会のまとめ役を務めて下さったのが宮川先生（地元愛知で何度も講座を下さっていました）で、学力研の大ベテランの先生に直接質問をしたり、助言を頂いたりできる環境がとてもありがたかったです。前回の講座の内容を聞いて、それを自分の学級でどのように実践しようとしたのかを、毎回記録としてまとめ、持参しました。学校をかわったばかりで、しかも一年生の担任で、日々の仕事を回すだけでも大変な毎日でしたが、次の回の日程がハッキリ決まっているので「それまでに何かは実践して、資料を用意せねば…」という意識で過ごすようになりました。この、日頃意識していることのレベルが上がった感覚は、私にとって大変新鮮なものでした。

同じ低学年部会に参加されていたメンバーのみなさんとも、毎月顔を合わせるの徐徐に打ち解けられましたし、自分の地域や職場との違いなども知ることができて、毎回とても楽しかったです。何より、やる気がある人たちの中で学ぶという環境が、自分を成長させてくれているということを強く実感しました。「場」は、大切なのです。

◎ 転機となった実践発表

全六回の講座も半ばを過ぎた辺りで、最終回に実践発表をする人が募られました。各部会から一人ずつということで、私は「他にやりたい方がいるなら、自分はいいかな」と思っていました。一方で、いつもそうやって手を挙げないでいる自分にジレンマを感じていました。すると、最初、低学年部会から手を挙げる人がいなかったのです。これは一大チャンスなのかもしれない：と思いついて迷って手を挙げました。それ以降ずっと実践発表のことが頭を離れず、国語『おてがみ』で、一年生でも予習して全員が考えをもって授業に参加するという実践に全力で取り組みました。この「発表する場があると自覚して実践に取り組む

感覚」が、とても良かったのです。

発表後、久保先生から常任委員になることを勧めていただき、今に至ります。受講生から講座をする講師へと、少しずつ立場も変わっていききました。すると、日々の実践に対する意識も、明確に変わっていききました。そしてそれが、それまでとは違った次元の成果を上げることに繋がったのです。

◎ 今、胸を張って

子どもたちに伝えられること

時は流れて、ここ数年、高学年を担任することが増えました。すると、周りの目が気になって、失敗を恐れて、なかなか手を挙げられなかったり、挑戦できなかったりする子ども達の姿が気になりました。彼らは迷って迷って、やめてしまふのです。

そこで「迷ったら、やる！」と毛筆で書いた紙を教室に貼り、子ども達にこんなことを語りました。

「迷えるということは、素晴らしいことです。それはあなたにやる気があるということの何よりの表れですから。やる気が無い人は、迷うことすらないので。さて、迷った先の未来ですが、挑戦した方が絶対に

いいです。なぜなら、その方が成長できるからです。失敗もするでしょう、当然です。でもその分成長できる。私も、先生になつてから、迷って迷って挑戦したことがありました。その時決断した自分を、誇りに思っています。迷ったら、やる！べきです。」子どもたちの心に届いたのか、以降「迷ったら、やる！」はクラスの合言葉になりました。挑戦を認め合う空気が育っていくのを実感しています。いいものです。

◎ 迷っているあなたへ

ここまで私の体験をつらつらと書いてきました。これは、これから私と同じような道のりをたどって、教師としてのステージを一段登られる方が出てくることを願うことです。先生のための学校に続けて参加することは、あなたを「聞く側」から「実践する側」へ、そして「伝える側」へと導く大きなきっかけとなり得ます。

先生方もきっと、ご自分のクラスの子ども達に、挑戦することの大切さを伝えていると思います。教師もまた、挑戦を通して成長するものです。ぜひ、大阪と一緒に学びましょう。愛知から、私も参加します。

「学力研・先生のための学校」で学んだこと

鈴木基久

受講生として

第3期の「先生のための学校」に参加した。浜松から新幹線に乗って大阪まで毎月通った。

当時、3年生の担任をしていた。

「1本30円の鉛筆を5本買います。代金はいくらですか。」という問題で30+5と立式する子がいて、どう教えたらいいいのか困っていた。

学力研の研修会で大達先生から、教科書には載っていない面積図を教えていただいた。単位量に注目すれば、たし算・引き算なのか、かけ算・わり算なのか分かること、たし算・引き算であればテープ図、かけ算・わり算であれば面積図に表せば、正しく立式できることを学ぶことができた。面積図を知り、単位量の有無に着目した「演算決定のフローチ

ャート」を帰りの新幹線の中で思いついたときのわくわくした気持ちは今でも覚えている。

講座の講師として

コロナ禍以降、オンラインで研修会が開かれることが多くなり、関西在住でない私も、日常的に学力研の学習会に参加できるようになった。

この時期に、学力研の常任委員になり、学力研の常任委員の皆さんと「ゼミナール」で学び合うことができるようになった。「ゼミナール」で学んだことや自分の実践についてまとめたことを、「先生のための学校」で講師として伝えてきた。

私が講師を務めた講座

15期 漢字指導

16期 説明文「ありの行列」

17期 説明文「動物園の獣医」

説明文「新教材について」

18期 漢字指導

19期 読む力、書く力、国語の基礎力をどう育成していくのか

漢字指導については、「リズム漢字」や「読み上げ漢字」の特長や使い方について説明した。

16期の説明文講座では、説明文の指導の4つのポイントを説明した。
①初めて知った驚きや喜び、感動を大切に。形式的な指導の繰り返しばかりにしない。

②系統性を重視し学習を積み上げる。
③指導者が学習用語の定義を押さえ、子どもが学習用語を使えるようにする。(例 要点、要約、要旨など)
④ものの見方・考え方(比較、分類)を大切に

17期の説明文講座では、説明文の学習で、私が大切だと思うことをまとめた。

・「この人（筆者）は何を伝えたかったの？」を低学年でも問う。

・単元間のつながりを意識し、大切なことを繰り返し学習できるように単元計画を立てる。

・初め、中、終わりの三部構成を作文で使うことで定着を図る。

・学習用語の確認と用語を使った説明を繰り返すことで、子どもが学習用語を使えるようにする。

講師をするときは、参加者に満足してもらえる内容と分かりやすい話の進め方を心掛けた。講師を務めることで、自分の実践をもう一度振り返ることができ、自分自身の学びにもなった。

講師を務めた中で、最も悩んだのが、昨年19期の「読む力、書く力、国語の基礎力をどう育成していくのか」だった。どんな内容にすべきか久保先生に何度も相談した。相談する中で、久保先生の学力研への思いや若い先生方に期待することを

することができた。

「学力研にはお抱え学者はいない。」今年8月の全国フォーラムで、『シン読解力』著者である新井紀子先生の講演を聞いた。著名な先生のお話を聞くと、素直な私はすぐになるほどと思つて、紹介されたことをやってみたくなくなってしまふ。そんな態度を久保先生にたしなめられた。

「自分たちのやってきた学力研実践に誇りをもたなくてはいけない。落ち研発足以来、現場のプロとして、子どもたちの成長を間近で見ながら、『読み・書き・計算・話す・聞く』の力をずっと伸ばしてきた。学力研にお抱え学者がいないのは、学者が言うことを我々がしてきたのではないから。我々、現場の教員が考えてこれまで取り組んできたことが、後から学者によって価値づけられただけなんだ。」

「次の世代への継承者であれ」

これまで日本の学校教育を進め、支えてきた多くの先生方の実践から

学び、それを生かして今の子どもたちと授業を作っていくことが、今の教員である私達の使命だと感じている。そこに自分なりのアイデアや工夫を入れて実践することが、結果的に次の世代へバトンを引き継いでいくことになると思ふ。

学校の教員の仕事は、再現性が低いと感じている。それは、素晴しい授業であっても、その学級の子どもたちと先生だからできるものが多いからである。しかし、子どもの発達段階や人間の本質を踏まえた実践であれば、再現性は高められる。学力研の百マス計算のような「いつでも、どこでも、だれでも」の実践がそれである。

学力研の学習会に参加すれば、先輩たちが創り磨いてきたものを惜しみなく教えてもらうことができるし、一緒に考えてもらうこともできる。

これが「学力研の先生のための学校」だと思ふ。第20期の先生のための学校に、是非参加してほしい。

「学力研：先生のための学校」で学んだこと

春日井学力研 小川 慶子

今の私があるのは

教員になって四十六年目。今も常勤講師として仕事を続けていられるのは、学力研との出会いがあったからです。

全国大会への参加から始まり、さまざまな企画に参加しながら、毎回元気をもらい、「やってみたい」と思える実践に出合いました。また、講座では、視野を広げ多くの知識を得ることができました。

昨年初めて参加した「先生のための学校」では毎回、新しい知識や実践のヒントを得ることができました。そして、学級経営の悩みを「お悩み相談コーナー」で毎回相談できたことが最大のピンチからの脱出へつながりました。

学力研の魅力

今から四十年近く前、初めて参加した全

国大会。学力研の先生はパワフルで、対面でレポートを聞いているだけで不思議な力が湧いてきました。この経験が何度も足を運び、原動力となり、今に至っています。

「いつでもどこでも、だれでもできる」というフリースは、間口が広くはじめての一步を踏み出すのに抵抗感がなく、安心して参加することができました。そして帰りには、すぐに役立つプリントをはじめ、レポーターの方々の具体的なお話から得た実践のコツなどのおみやげをいただけ充実した時間を過ごすことができました。

二学期になると、「目の前にいる子どもを何とかしたい」という思いで次々に追実践を試みました。しかし、当然うまくいかないことがたくさんありました。何回目かの全国大会の分科会で、「遠くから参加されている先生、一言いかがですか」と指名され、日ごろのクラスの様子を少し話すと、「自分のクラ

スをよく見てアレンジして試してみたら？」と先輩の先生が声をかけてくださいました。参加者一人ひとりを大切にしてくださる温かい会だなあと実感しました。そしてこれが実践の方向を修正するきっかけになったことは言うまでもありません。

学力研での学び

何度が参加しているうちに顔を覚えてくださった先生から「一緒にお昼ご飯食べましょう」と声をかけていただき、感激しました。今は亡き雨越康子先生です。いつも元気で凛としていて研究熱心な先生にあこがれ、困りごとの相談もよくしました。晩年は一緒に幼児教育や脳科学を学ぶこともできました。自分だけでは思いもよらない分野の勉強でした。

硬筆書写は、故高嶋諭先生のところで開かれていた「硬筆書写部会」に参加し学びました。低学年特に一年生の担任として大切と考えたのがきっかけでした。先生がご存命の頃は、毎回、実技と講義でした。一番緊張したのが実技でした。「手本通り書く」とはどういうことかということをもつて体験

しました。一画一画の長さ・角度などに細心の注意を払って書くことの難しさを実感しました。この経験は、子どもの指導に大に生きています。また、持ち方矯正のために開発された道具を見せてもらったり使わせてもらったりもしました。「この子のこういう癖を直すのには何が必要か」を常に考え一人ひとりに合った道具を開発される姿に感銘を受けました。先生亡き後も活動を続け、高嶋先生から受け継いだ技術をどう教えていくかを前田昌彦先生を中心に研究しました。箸・鉛筆の持ち方の技術を伝えることの難しさを実感しました。

春日井学力研で催していた「力量」講座では、学力研のたくさんの方に来ていただき、貴重なお話を聞くことができ、毎回学ぶことが多かったです。実技講座では、京都の宮川佳代子先生の絵の講座が好評で、複数回来ていただきました。その中で知った「おだんごがき」は私の図工の指導で役立っています。低学年の子どもでも、描き方を教えると、自分の描きたい人物の動きが表現できるの、子どもたちは生き生きと絵を描くようになります。

学力研で出会ったたくさんの方の先生を通していろいろな分野の学びができたことが、ありがたく、幸せなことです。こうして学んだことを蓄積していくだけでなく、実践の中で使い、サークルの仲間と交流することでさらに広がりができたことも今の私を支えています。

学力回復は計算から

昨年度の後半から四年生を担任しました。「話が聞けない」「学習が思うように進められない」「発達に課題がある」「家庭に困りごとがある」など様々な問題を抱えている子どもがいる困難なクラスです。四年生といえば、算数の「 $\frac{1}{2}$ けた」です。十月には既習事項となっていました。テストをするまでもなく、不安材料がいっぱいの状況でした。手始めに「100マス計算5分間チャレンジ」をしました。速さより正確さを優先し、「昨日の自分に勝つ」を合言葉にかけ算・たし算・ひき算の順で取り組みました。結果の「見える化」により、計算練習だけでなく、「やればできる」を実感し、前向きになつていく姿が見られました。

「どの子ども伸びる」をモットーに、学力研で学んできたことを総動員して子どもに向き合うことで、最初のひと山を越えることができたのです。

先生のための学校

最近、子どもたちの姿に違和感を持つことが多くなってきました。発達に課題のある子どもが増えているのか、保護者の考え方が変化してきたのか、よくわかりません。学級経営や授業の進め方など、今までやってきたことをいろいろ試してみてもうまくいかないことが増えています。また、職員室の様子もどんどん変わっていきます。

こんな状況だからこそ、新たに学ぶべきことがあるはず。学校の中だけでなく、もっと大きなところで現状を見つめ直す必要があります。学ぶことに終わりはありません。いくつかになつても勉強です。今年も参加します。

そして、去年ありがたい存在だった「お悩み相談コーナー」で、困難な現状を相談していただけたらと考えています。

「学力づくり」で「学級づくり」をすることのよさ

大阪 吉田雅直

私は、二〇一九年の夏の大会で学力研に出会いました。当時は二年生の担任をしていたのですが、二期から「リズム漢字」「つぶやき書き」「百マス計算」「さかだち」「音読」など、学力研で学んだことを片っ端から実践すると、たちまち子どもたちの目がきらきらと輝きだし、保護者からの信頼も得ることができるようになったのです。私の教師人生を根底から変えてくれたのが、学力研でした。

私が学力研で学んだ最も大切なことは「学力づくりで学級づくり」ということです。それまでの私の学級経営は、まずクラス遊びや楽しいイベントで「学級づくり」を行い、その「信頼関係」に依拠して授業を成立させ、「学力づくり」を行うというものでした。しかし、遊びの中で培われた「信頼関係」や子どもたち同士の「つながり」は所詮遊びの中でしか通用しないものであり、それに依拠して授業を成り立たせるなど、何の根拠もない幻想に過ぎな

かったのです。実際、毎年スタートは楽しい感じで盛り上がるのですが、学習規律が育たず学級がだんだんしんどくなっていくという状態を何度も経験し、悩んでいました。

しかし、学力研に出会い、この発想が根底からひっくり返りました。子どもたちが毎日の授業の中で「できた」「わかった」ときらきらと目を輝かせながら友だちと共同的に学び、「心地よさ」を感じながら学習活動において豊かに「つながる」ことこそが、最大の「学級づくり」であることを、数々の追実践を通して実感することができたからです。

学力研の魅力は、「こうすればうまくいきますよ」という指導方法を教えてくれるだけでなく、その実践の根拠となる「こころ」や「思想」についても教えてくれるところです。「百マス計算」は、計算力だけでなく、「努力が成果に結びつく」ことを実感させるために取り組みののだということ。漢字の「つぶやき書

き」は、「分析と統合」という科学的に最も効率のよい学習方法であり、漢字を覚えるという孤独な作業を、豊かな共同へと変える力を持つていること。心地よい音読には、学級を根底から変える力があること。一〇までの数の合成と分解の習熟が、くり上がりとり下がり学習を支え、格差を解消すること。など、ひとつひとつの学力研の実践には、しっかりとした理論的な根拠があり、実践を重ねれば重ねるほど、その理論的な「よさ」が自分のものになっていく手ごたえが感じられるのです。

この学力研の実践の理論的な「よさ」、すなわち実践の「こころ」を知っているからこそ、学年や学級やひとりひとりの子どもたちの実態に応じて、調整したり、アレンジを加えたりすることができるようになるのです。

学力研には「これさえすれば絶対にうまくいく」という方法は、存在しません。しかし、「心地よさのなかで」「豊かな共同を大切にしながら」「どの子も伸ばす」という基本理念を大切にしながら、日々実践を重ねていくことで、どんな困難な状況の中でも、必ず一筋の光が見えてくる。それが、学力研で学び続ける意味だと私は思っています。

私が学力研での学んだもうひとつの大きなことは、実践とは、記録して、分析して、報告することで積みあがっていくということです。学力研には、実践報告の場がたくさんあります。報告を準備することは、時間も労力も気力も必要なので、正直、負担に感じることもあります。しかし、その労力の何倍もの見返りがあるのです。報告するためには日々の授業を記録し、分析し、まとめる必要があります。この「記録」と「分析」と「まとめ」こそが実践を意味あるものにしてくれるのです。

記録とは、子どもたちの成長の記録です。ノートや百マスのタイム、なわとびやさかだちなど、記録をとることで、子どもたちの成長や課題が具体的に「見える」ようになります。それを子どもたちと共有することで、達成感を感じさせることができたり、目標が見えてきて、やる気を高めることができます。報告のために取り始めた記録が、実践の質を高めてくれるようになるのです。分析には「観点」が必要です。例えば、「ふりかえり」も「たくさん書けるようになった」というだけでなく、「登場人物の気持ちの変化について書けているか」という具体的な評価の観点を持つてい

ると、よりの確な評価ができるようになります。つまり、分析するためには、授業の目的や子どもたちに「つきたい力」が明確である必要があり、その意識が教材研究や授業の質を高めてくれるのです。最後に「まとめる」とは言語化することです。「なんとなくいい感じの授業ができた」というのは、ただの感覚であり、言語化できないということは、「わかっていない」ということになります。記録と分析をもとに、自分の思考を「言語化」することで、「そういうことだったのか」と気づいたり、意味づけしたり、次につなげたりすることができるようになります。私が今書いているこの原稿も、学力研に出会ってからの実践をみなさんに「伝える」ために書いている以上に、自分が学力研で学び続ける意味について再確認するうえで大きな力になっています。

学力研との出会いで、もうひとつ大きく変わったことは、保護者との関係です。それまでは、保護者は「何かあったら色々言ってくる存在」で、できれば関わりたくないとまで思っていました。しかし、学力研に出会ったことで自信を持って学力づくりに取り組むことができるようになり、学級通信でも学力づくりにつ

いて発信するようになると、保護者からの信頼を得ることができるようになり、懇談でも学力づくりの話題で盛り上がるようになっていったのです。それまでは、学力づくりは学校で完結する取り組みだと思っていましたが、保護者の信頼があるのとないののでは教育効果が雲泥の差であることに気づいたのです。それ以来、特に四月の学級通信では、毎日のように学力づくりや学級づくりへの取り組みと、それらの実践に込められた私の教育理念を熱く語るようにしています。初等普通教育の専門家として、保護者と自信を持って向き合い、教育方針を示し、子どもたちの成長を確約できる教師であり続けるためにも、学力研で学び続けたいと思っています。

最後に、学力研と出会ってよかったことは、志を同じくする「同志」が全国に存在するということ強さです。職場の同僚も大切ですが、職場は違っても、それぞれの現場で同じものを信じ、同じものに向かって日々実践を続けている仲間がいること、そして、その実践を交流し、議論できる場があることは、私にとって何よりの「財産」であり実践を続ける原動力になっています。

Ⅱ 先生のための学校で学んだことⅡ

若い先生の悩みに寄りそうこと

いろえんぴつ 岸本 ひとみ

歴47年目

1980年に、兵庫県に採用され、この職についたので、今年で47年目になります。学力実践を続けてきたおかげで、何とか担任業をまだやっています。

先生のための学校で

その① 若い先生の悩みがわかる

キャリアが長いから、もう学ぶことは必要ないのでは、とお考えの方も多いかもしれません。確かに、一定のスキルは身に着きますし、保護者よりも年令が上になると、話を通じやすくなるので、それに胡坐をかいてしまっていることも多くなってきました。先生のための学校が始まった頃は、40代後半でしたから、ちょうどそのような年代でした。一方で、相担の方は、大学を卒業したての講師さんや、初任者の方、育休明けの方、などと組むことが多かったのです。

た。その頃の私の悩みは、相方さんの困り感がなかなか理解できないことだったのです。

いろいろと学年で相談して、こうしようという提案しても、説明の仕方や伝え方が中途半端だったようで、ちつとも伝わっていなかったという現象が、けっこう多かったのです。どうして伝わらないのかと、悩みました。

ところが、先生のための学校に参加すると、若い先生方のストレートな意見や実態、困り感が出るわ出るわ、だったのです。同僚さんたちは、忙しさゆえに、自分の困り感をあまりストレートに言えなかったのだということが、よくわかりました。

そこからは、説明の仕方を工夫しました。いっしょに作ってみたり、実際に5分間だけ参観に来てもらったり、より具体的に伝えるように意識することができました。お

かげで、学年の取り組みが、それ以前より格段に深化して、充実することにつながりました。

その② 自分の弱点がわかる

先生のための学校では、講師を務めることもありましたけれど、他のベテランさんの実践が目の前で展開されるのを、直接見たり、聞いたたりできることの方が多かったのです。

私の苦手なのは、国語の物語文の指導だったので、他の方の実践を聞いて、ヒントになることがとても多かったです。「海の命」の展開例や「大造じいさんとがん」など、有名教材に対する解釈の仕方や、読み取らせ方などは、いろいろなやり方がある、それぞれにおもしろかったもので、ずいぶん参考にさせてもらいました。

また、例えば、岡本さんの板書のコツを聞いた時など、こんなふうに若い先生に説明すれば、きつと上手にチョークが使えるようになるだろうと思いました。宮川さんの、叱る時は「鬼語を話す」というのも、

子どもの発達に沿った叱り方をよく考えておられるなあと、感心しました。

自分の苦手としていることは自覚はしていても、それをあえて改善したり、学ぶことはなかなかできないのが、経験年数ばかり増えている私だったので、ここでの話は刺激的でした。

その③ 教育情勢がわかる

案外、自分の勤めている地域以外の教育条件については、あまり知らない教員が多いように思います。評価方法も、授業展開も、いろいろ制約があつて、自由度の低い地域の話を知っていると、そんなことまで拘束されるのかと、苦しくなってしまうこともありました。逆に、おほかでけっこう自由度の高い実践が認められている地域の話を知ると、自分の学校や地域でも、そうありたいと思いました。

子どもの様子についても、千差万別なので、「就学援助率が半分を超える」と聞いて、目がテンになったり、中学受験が当たり前の学校の6年生の12月の困りごとは、

宿題をうかつに出せないこと、というのを聞いて、受験つてたいへんなことなんだと、田舎者は驚くことばかりでした。

いろいろな交流もできたので、自分のクラスにそんな家庭環境の子どもがいる時にも、あまり驚かずに対応することができました。

その④ まるでサークル活動みたい

地域サークルでは、毎月レポートを作つて、持ち寄つて、学習したり、交流したりします。悩み事や愚痴を言う場にもなつていて、落ち込んでいた時に励ましてもらえることもありました。

先生のための学校つて、実践の質を上げることが大きな目標ですけど、悩み事を出して、解決方法をいっしょに考えたり、同じような経験をした時の話が聞けたりするのも、大きな魅力でした。

久保校長先生には悪いのですが、私から見ると、この場の設定自体が、ひとつの教育サークルのような気がしていました。でも、この場で、励まされたり、勇気づけられたりした人はとても多いと思います。

その⑤ 教育の在り方を考えさせる場

自由進度学習だ、探求だ、とかまびしい世の中で、「すべての子どもに確かで豊かな学力を」と願うことが、いかに希少で正当性の高いものであるかを、毎回実感させてくれる場でもありました。

一斉授業のできるクラス、一斉授業のできる教師が進める自由進度学習と、そうでない場合とは、教育効果が全然違うのではないかと、ずっと考えています。今年の先生のための学校では、そのことについて学びたいと思います。

確か、ICTが一斉導入された年には、2年生にローマ字入力をさせて使わせているという無茶な学校の実態も聞きました。あの時も、受講されるみなさんの話を聞いて、自分の学校、クラスでは、学年基準はこの程度というのを考えました。

何しろ、参加すれば、必ず何か学ぶことがある、という大変ありがたい「場」です。ぜひ、みなさんにも味わってもらいたいです。

バンコク旅行から授業を作る

僧侶優先座席とインスタント麺

バンコク旅行前に、NHK「チューザイ in the World タイ バンコク」(2026.2.26放送)を観た。

面白かったというか、ぜひ、バンコク旅行で写真を撮っておきたいことがいくつかできた。

一つめが、地下鉄へのドリアン持ち込み禁止の表示。匂いが強烈なドリアンは、公共交通関係では持ち込み禁止の規制がされているようだ。

さらに、地下鉄車両内には、お坊さん(僧侶)専用の優先座席がある。なぜかといえば、僧侶は女性に触れることが禁止されているから。車内で不慮の接触を防ぐためのものなのだそうだ。

二つめは、インスタント麺。タイは、インスタント麺の一人当たりの年間消費量が

世界第3位(約58食)だそうです。(1位がベトナム、2位が韓国。)タイでのインスタント麺の市場規模は一二〇〇億円にもなるようだ。

そして、一番びっくりしたことが、タイのインスタント麺は、全部7バーツ(約35円)なんだそうだ。過剰な価格競争を防ぐために国が価格を決めているのである。

バンコク一日目

昼ごろ、バンコクに到着。

ただ、入国手続きが長蛇の列で、人気アトラクションや、万博の入場並みに、時間がかかった。(約1時間)

空港から電車に乗って、ホテル最寄りの駅へ。電車を降りると、熱波と湿気が一気に押し寄せてきた。暑くて(熱くて)、はじめ。

とにかく、車とバイクが多い。(日本と同じ、左車線。)車と車のすき間をバイクが走る。二人乗りもとにかく多い。

途中、セブンイレブンに入ってみると、

やはり、即席麺は7バーツだった。

ホテルは、とても清潔で、広々した部屋で満足。

タクシーを手配し、ショッピングモールへ。1万円をバーツに両替してから、食べるところへ。トムヤムクンを食べた。辛じよっぱい感じ。

電車でお土産を買う場所に。(電車の中は人でいっぱい)

トムヤムクンのインスタント麺10パック入りを7パック購入。

クレジットカードで払ってみると、二〇七二円。70人分のお土産を用意できた。

ホテルまでの帰りは、運河を進むボートに乗って。15バーツ(75円)。狭い運河を暗い中進むので、怖い気もするが、涼しかった。

ホテルに戻り、少し食べ飲みして就寝。

バンコク二日目

ホテルの朝食は、おいしかった。オムレツを目の前で作ってもらえた。

運河を走る船に乗って、まずは、ワットサケットへ。

十二支の石像以外に、鳥葬を再現した石像もあった。

死んだ者を、ハゲタカの群れに分けあたえるのが、鳥葬だ。ただ、自分の親しかった者が、鳥に啄ばまれていくのをじっと見ることはできないと思うのだが。

次に向かうワットアルンへは、渡し船で行った。その手前の店群で、私はバツタイ（タイ風焼きそば）を、同行者はドリアンを食べていた。

ワットアルンは、壮観。階段は、壁を登っているように急で、60度以上はあった。ワットポーは、途中までしか登れず残念。縄ばしごもついていたので、掃除する人たちが使うのだろう。

とにかく、暑くて体力を消耗。

途中、セブンイレブンで、7バーツのずらっと並んだインスタント麺も、写真におさめた。（教材用）

国鉄の2バーツ（10円）には、ビックリ。ホテルで、同行者と軽く宴会をして、バンコクの最後の夜を快適なホテルの一室ですごした。

授業プラン「タイ□国の不思議」

【板書】タイ□国

「□に漢字一文字が入ります。何だろう。」

正解は、王。タイ王国という。国旗提示。

「赤・白・青の国旗です。」

それぞれの色には、どんな意味があるでしょう。」

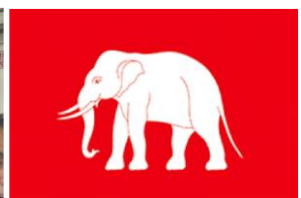
自由に言わせる。フランスであれば、赤が革命の血の色だが。

【板書】青⇨チャクリ王朝

赤⇨国民

白⇨白ゾウ

以前の国旗は、赤のバックに白いゾウ。



旅行で撮った左の写真を提示。

「写真を見て、分かったこと・気付いたこと・思ったことを書きましょう。」

よく見ると、黄色い看板に「RESERVED FOR MONK」と書いてある。モンク（僧侶）の優先座席なのである。地下鉄の優先座席の画像も提示する。

「なぜ、僧侶の優先座席があるのだろう。」
発表後、僧侶は女性に触れてはいけな
きまわりがあることを伝える。

タイのセブンイレブンで撮った写真を提
示。（トムヤムクン以外のバーツは隠す。）



「トムヤムクンのインスタント麺が7バー
ツで売っていました。」

1バーツは、日本円で約5円であること
を告げ、トムヤムクンのインスタント麺が
約35円であることを確認する。

「横に並んだ他のインスタント麺は、何バ
ーツだと思いますか。」

予想を発表させた後、全部が7バーツで
あることを提示する。

「なぜ、全部が同じ値段なのでしょう
か。」
班で相談させ、一人に発表させていく。
その後、次の記事を紹介する。

タイ商務省国内商取引局は、「Mai Mai」
「Mai Mai」「Yum Yum」の即席麺3ブランドについて、2022年8月25日から袋麺を
1バーツ値上げして、1袋あたり7バー
ツにすることを許可しました。

なお、これ以上の値上げは、7年以下
の禁錮か14万バーツ以下の罰金、または
その双方が科される可能性があります。

タイ商務省は、生産コストの上昇を考

慮し、この決定を下しました。しかし、
この認可は、そのコストが減少した場合、
あるいは減少したときには、それに応じ
てパケット単価を引き下げることが条件
としています。また、メーカーは毎月、
原材料のコストを国内商取引局に報告し
なければなりません。

（タイランドニュース

2022年8月25日 配信）

「タイではほとんど自炊しないので、イン
スタント麺は大人気で、その消費量は世
界第3位なのです。それゆえ、価格競争
にならないように、国で価格を統制して
いるわけです。国によって、その独自の
いろんな決まりがあるのですね。」

（授業終了）

六年理科で、この授業をしたとき、

【板書】国際理解教育

（こくさいりかいきょうい）

「理科が入っているよね。」と。

「社会科における読解記憶とは？」

学力研常任委員 深沢 英雄

一、子どものふりかえりから

社会科実践研究をはじめ、四回目の研究会が終わりました。室町時代の終わりまでの教材研究を行いました。五人の参加者はとても熱心に参加してくれるので、私としては本当に有難いです。この研究での学びを自分のクラスや学年や、次に受け持った時に生かそうとしてくれるのがなにより嬉しいです。

四十代から社会科の勉強を一から始めて、歴史に絞って実践研究をしてきました。現場での子どもたちと一緒に作ってきた実践と大学での十年間の模擬授業が土台となり、今の実践研究会につながっています。若い先生方が、バトンを受け取ってくれることが私にとっては、望外の喜びです。

参加者の李先生から「子どもたちがふりかえりで、こういうことを書いてきたんです」「というメールをいただきました。

先生方のクラスで、次のようなふりかえりが

書かれたら、次の授業で、どう教師は語り、どう授業に生かしていけるでしょうか。

『新しい国づくりの授業で子どもは次のような質問をしてきました。』蘇我氏は天皇をしのぐほどの力があつたならば、中大兄皇子に滅ぼされずに勝てたのではないか。』なぜ自分たちの国を作りあげてくれたような人を殺したのだろう。』という質問です。

いかかですか。日本文教出版の教科書です。『2、天皇を中心とした政治の単元の二時間目に聖徳太子の政治』という項目があり、p86に『聖徳太子は、天皇の政治を助けながら、強い力をもっていた豪族である蘇我氏とともに、天皇を中心とする政治のしくみをとのえていきました。』とあり、この学習をしました。次の時間は、新しい国づくりで、こう書いています。p88『太子がなくなると、蘇我氏の力は天皇をしのぐほど、強くなりました。これをみた中大兄皇子と中臣鎌足は、645年

に蘇我氏をほろぼしました。』

二時間で学習した、教科書の記述に対して、二人の子どもは、「問い」を持ったのです。

子どもは、教科書の二つの記述を結びつけて、「国づくりを一緒に進めた蘇我氏が、なぜ急に滅ぼされるのか」「天皇より強いなら、なぜ負けたのか」という矛盾に気づいたのだと思います。私は最初にこの質問を読んだ時に、困りました。教師は、聖徳太子の時代のこと、いわゆる大化の改新(乙巳の変)についての知識を持っています。でも六年の子どもたちは、教科書の記述しか知りません。塾や歴史が好きで本を読んでいる子もいますが、ほとんどの子は、教科書で初めて日本の歴史を学ぶのです。知識がなくて当たり前です。

でも、何も知らないために出てきた質問では、ありません、教科書から学んだことを覚え、それを使って次の記述を読んだからこそ、生まれた問いでした。

ここには、性質の異なる二つの「ずれ」があります。一つは力についてのずれです。「天皇をしのぐほど強い」と書かれているのに、なぜ中大兄皇子たちに敗れたのでしょうか。もう一つは役割についてのずれです。天皇中心の政

治づくりに協力した蘇我氏が、なぜ、その政治を担う側から滅ぼされたのでしょうか。

教科書の短い記述だけでは、出来事の間に関何が起こったのかまでは十分に見えませんが、だからこそ、子どもの問いを授業の入りに口にできます。まず、子どもたちと二つのページを読み直し、「それぞれのページに何と書いてあるか」を確認します。次に、「二つを続けて読む」とどこが不思議か」を言葉にします。そのうえで教師が、太子の死後の政治や、蘇我氏と中大兄皇子たちの関係を、問いに答えるために必要な範囲で補います。説明を聞いた後は、最初の疑問に戻り、「分かったこと」と「まだ分からないこと」を分けて考えます。

この学習で大切にしたいのは、問いを出した子だけが説明を聞いて納得することで終わらせないことです。その子が見つけたずれを学級で共有すれば、ほかの子も教科書を読み直す理由を持てます。一人の疑問が、学級全員で考える問いになります。

二、「読解記憶」との関連について

久保先生が書かれた『子どもの学力を伸ばす不滅の一斉授業』のP238に「読解したことを記憶していなければ、読解した事柄は

子どもたちの学力の原資にはならないことは明確……。記憶の多くの部分は、必ず論理のある記憶で成り立っています。読解記憶という新しい概念は、読解したこと、読解した論理（学習したこと）のすべてを記憶の対象として子どもたちに集団的記憶させ、学力の原資にしていこうという考え方です。今回の子どもの問いは、その考え方を具体的に示しています。86ページで学んだことが子どもの中に残っていたから、88ページの記述とのずれに気づけたのです。読んだその場では分かったつもりでも、後で使える形で残っていないければ、この問いは生まれにくかったでしょう。ただし、「読解記憶」は教科書の文をそのまま暗唱することだけではないと私は考えます。「聖徳太子と蘇我氏は何を一緒に進めたのか」「太子の死後、蘇我氏の力についてどう書かれているか」と問い直し、本文を読み直して答えることが出発点です。さらに、「この二つを並べると、どんな疑問が生まれるか」と考えます。書かれている事実を確認し、その関係を自分の言葉で説明できるようにする。そこまで含めて、学んだことを次に使える知識にしていきたいのです。

子どもの質問は、「批判的に読む」とは何かも教えてくれました。それは、教科書を否定したり、間違い探しをしたりすることではありません。書かれていることを以前に学んだことと照らし合わせ、「これだけで説明できるだろうか」「間には何があったのだろうか」と考えることです。教科書を正確に読むことが、教科書を使って考えることにつながります。教師はその後の歴史を知っているため、二つの記述の間を自然に埋めて読み進めてしまうことがあります。一方、子どもは、ここまで学んだ知識を頼りに読みます。だからこそ、大人が通り過ぎるところで「前に習ったことと合わない」と立ち止まれます。私は今回、困った質問だと思ったものの中に、子どもが学んだことを使って考えている姿を見つけました。授業では、教師が問いを用意することも必要です。そして、教科書を読み、覚え、比べるうちに、子ども自身が「ここを知りたい」ということも大切です。「先生に聞かれたから答える」から「自分が分かりたいから調べる」へ。教師は子どもの問いを受け止め、必要な知識と資料を示しながら、学級全員で考えられる授業につなげていきたいと思っています。

「先生のための学校」誌上 開校

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋 2026 10

「春の先生のための学校」の

開校をめざそう

9月、6役会議を開き、学力研の来し方行く末を話し合いました。

久しぶりに対面での話し合いであったので、雰囲気はさくばらんでありましたが、話の内容、分析は資料を基になり深いものになりました。

その内容は今後の常任委員会でそれぞれの部署から提案され、議論されることとなりますが、先生のための学校という観点から、そのビジョンを書かせていただき、議論するときの参考にして頂ければと考えています。

現在の学力研の年間の取り組みは春 先生のための学校講座

夏 学力研フォーラム

基調提案 実践報告

記念講演

学年別分科会

秋・冬 先生のための学校5回

冬のフォーラム

年間を通して

一年生部会

授業・自治ゼミナール

各地域サークル

地域集会 大分→春日井→石垣島

このような形で一年のサイクルで学力研運動は進んでいます。

しかし、このサイクルを新たに加入された参加者の動静から分析してみると、果たして先生方のニーズにマッチしているか考えると疑問符が沸き上がる所が多く見受けられることになります。

先生方は

学力研に何を求めているのか

学力研の提案する学びのルート、サイクルには現在、いくつかの問題が生じています。

まず、春の先生のための講座からフォーラムでの学年別分科会へのルートです。学力研の他の研究会にない最も大きな特徴の一つが「学年別分科会」です。

夏のフォーラムでの学年別分科会は、それぞれの参加者が自分の担任する学年の一学期の取り組みを総括し、二学期からどのように授業を行い、クラスを創っていくのかを真剣に学び、構想する場としてキラキラと輝いています。

しかし、学力研の「先生のための学校」春の講座は、要求別講座の形をとったアラカルトになっていて、夏のフォーラムでの学年別分科会への動線としては整備されていないのです。

学力研の新人会員がいつ加入されたかを見れば明らかに、春の講座が多いので先生方のニーズは春にあります。だから、今、私たちのすべきことは、春の先

生のための学校講座を大きく発展させて、「春の先生のための学校」に格上げし、1年から6年までの全ての学年別分科会を用意し、それをもつて「春の先生のための学校」とするべきだろうと考えるのです。

それぞれの学年担当者2名でズームを運営し、4月、5月、6月の3回の「春の先生のための学校○学年連続講座」として整備開校することが学力研に最もふさわしい取り組みになり、フォーラムでの学年別分科会への参加者だけでなく、提案者を見つけ出し、学力研の働き手を生み出す源泉となりと確信するのです。

学力研「一年生講座」に学ぶ

この取り組みは、一見大変そうに見えますが、岸本先生、吉田先生を中心に、この何年か「一年生講座」が活発に活動され、多くの教訓やノウハウを蓄積されてきました。私たちはこの取り組みに学び、年間を通して学年講座を運営する方法とその心を学ぶならば展望は開けると確信するものです。

いままでは、夏のフォーラムで学年別分科会を担当する人が、その準備もかねて「春の先生のための学校○学年講座」を担当するということで、夏の学年別分科会もより深いものになって行くと確信するものです。

「秋の先生のための学校」は

何をもとめるか

学力研「先生のための学校」は今年度で二〇周年を迎え、十月十七日に赤坂真二先生を迎えて記念講演をおこなうことになっています。

さて、来年度からどのような学校にすべきかは、「春の先生のための学校」の塩梅でその方針を決めようと考えています。

始まった当時は多くの参加者があつたので、講座の後、学年別の分科会をその場で分かれてしたこともありましたが、コロナの間はズームで行い、昨年度からようやくリアル開催ができるようになり、今は、教科別の講座、クラスづくり講座、何でも相談コーナーを行つていきます。

発達の視点をもつた

先生のための学校学年別分科会を

今の教育、とりわけ、私たちが担当する「初等普通教育」を論じるとき、最も問題にすべき、由々しき事態とは何か。それは、発達と言う観点が教育現場から消えていることだと言えます。

今から二十年くらい前までは教育現場でも「発達の観点から、その教材は」とか、「九、十才の壁をどう豊かに超えさせるか」とかの論議がよくおこなわれていたのです。しかし、「資質、能力」という言葉は「発達」という観点を失わせ、「個別最適な学び」が発達論無視の形で押し付けられとき、教育は非科学的な営みに変えられ、子どもたちの苦悩と先生方の意味のない徒労となつて、教育現場に暗い影を落としているのです。

学力研「学年別分科会」は現場教師の億千万の実践からのギフトと発達論に裏打ちされて、科学としての側面を持つことが求められます。共に、実践で深め、共に学び座学で深め、子どもたちのために共に頑張りましょう。

同長だより

10月

◇学力研最新情報 岸本 ひとみ

●会員って何？

学力研は年会費制をとっています。4月～翌年3月の単年度を会員年度としています。そして、8月の全国フォーラム以降に入会される場合は、半年会員のシステムがあります。年間会費は4000円、半年会員は2000円です。

○会員のメリット

①オンライン講座は全てに無料で参加できます。

②対面講座には割引があります。

※例えば、下記10月17日であれば3000円で参加できます。

③学力づくりの情報をゲットできます。

※典型的な例は、静岡の鈴木基久さんが製作された「読み上げ漢字」光村版&東書版です。これは、出版はされていないけれど、会員の方からはリクエストがあつて、都度メール送信しています。

④各地のサークル例会の紹介があります。

意外に知られていないのがこれです。

はないでしょうか。月に1回、学期に1回など、頻度はいろいろですけれど、教材研究をしたり、クラスの実態を交流したり、悩み事の相談をしたり、職場以外で学校のことを自由に話せる場です。

⑤自分の学力づくり実践をまとめて、発表することができます。

だいたいの場合には、こちらからお願ひしてレポートしていただいています。管制の輪番研修のように、発表順があるわけではありません。もちろん、強制力は全然ありません。

○会員のデメリット

入会したら、何か仕事割り当てられるのではとか、別に費用が発生するのではとかいうことはありません。もちろん、対面の学習会に参加していただく場合は、会場費と講師料に充てるだけの金額は負担していただくことにはなります。

次の会員更新は、3月に始まります。ぜひ入会を検討下さい。

◇事務局だより 岡本 美穂

●第20期先生のための学校

10月17日(土)

赤坂真二先生よりお言葉です。

20年

続けるって本当に大変なことだと思ひます。民間のセミナー

は学びの場であり交流の場であり、同時に癒しの場になります。

これは「居場所」の条件です。「居場所」は人にとって、欠くことが

できないもののかかなり優先順位の高いものはずですが、近年

はそれがあちこちからどんどん縮小されつつあるように感じま

す。居場所は人に夢や希望を与えます。つまり、学力研の皆さん

は20年にわたつて多くの方に夢と希望を与えてきたことでし

よう。そんな場づくりの一隅に関わらせていただき、光栄であ

り、感謝の気持ちでいっぱいです。久保先生、岡本先生、深沢先

生、皆様にお会いできることが楽しみです。

二十周年記念

「特別記念講演」

■場所 エル大阪

■参加費 3500円

会費 3000円

■プログラム

『先生のための学校で学んできたこと』 岡本 美穂

『不滅の一斉授業』 久保 斎

『明日も行きたい学級づくり』

赤坂真二先生

鼎談

赤坂真二先生(パネリスト)

久保 斎(パネリスト)

岡本美穂(パネリスト)

・深沢英雄(ファシリテーター)

<https://www.kokuchopro.c>

<om/event/9e9d7f05d09>

<f7d402e7fee9e97920>

8F/

仲間と学び合う

先生の場へようこそ

日々子どもたちと向き合う中で、

「もつとよい授業をしたい」

「子どもの学びを深めたい」

そんな思いを持ちながらも、一

人で悩んでしまうことはありま

せんか。先生のための学校・学

力研は、教師が教師のために学

び合う場です。

学力研カレンダー

《各地のサークル・部会

2026年 10月

例会、イベント》



どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

10/

- | | | |
|---------------------|----------------|---------------------------|
| 10 (土) 大阪教育サークルはやし | 午後 エルおおさか | 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp |
| 23 (金) いろえんぴつ 18時半～ | コミュニティーセンターおおべ | 岸本 090-9117-6330 |
| 23 (金) 春日井学力研 18時半～ | レディヤン春日井 | 山口 080-6904-1697 |
| 社会科実践研究会 | | 李 iwamotoshie@gmail.com |

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

他サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等のご連絡ください。

○みなみ学力研 9時45分～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp

○伊丹学力研 18時半～ 伊丹市役所横サイゼリヤ 前田 090-9715-3830

《全国キャラバン等 今後の予定》

○学力研 1年生講座 10月24日(土) 13:30～14:30 オンライン

★20周年記念 先生のための学校（於エルおおさか）

10月17日(土) 13:00～16:45

特別記念講演 赤坂真二先生（上越教育大）

岡本美穂「先生のための学校で学んできたこと」

久保齋「不滅の一斉授業」

深澤英雄を加えた鼎談

（詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで）

（講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ fax：079-426-5133）

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一

E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛

E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也

E-mail katsuya4k1h9@gmail.com

古東 秀一

E-mail kohigasi1201@gmail.com